

## 進行直腸癌に対する mFOLFOX6+Cetuximab 療法中に高アンモニア血症を呈した高齢者の1例

さ さ き ゆ い たに うら たか ひと  
佐 々 木 優 衣<sup>1)</sup> 谷 浦 隆 仁<sup>2)</sup>  
はな おか たく や おお い しん じ  
花 岡 拓 哉<sup>3)</sup> 大 居 慎 治<sup>4)</sup>

キーワード：5-FU，高アンモニア血症，意識障害，高齢者，大腸癌

### 要 旨

症例は82歳男性，傍大動脈リンパ節転移を伴う進行下部直腸癌に対し，1次化学療法として mFOLFOX6+Cetuximab を開始した。有害事象などによる減量や中止なく，治療を継続していたが，7コース目の3日目の朝，自宅で意識がなく倒れているのを家族に発見され，当院救急外来に搬送された。画像検査，電解質などに異常は認めず，血中アンモニア濃度が402  $\mu\text{g}/\text{dL}$ であったため，高アンモニア血症による意識障害と診断した。分岐鎖アミノ酸製剤と補液で高アンモニア血症は改善し，第2病日には意識状態はほぼ清明化した。症状再燃なく第8病日に退院となった。

mFOLFOX6 療法は切除不能進行再発結腸・直腸癌に対して頻用されるレジメンである。今回，5-FU の有害事象と考えられる高アンモニア血症による意識障害をきたした1例を経験したので，文献的考察を加えて報告する。

### <は じ め に>

切除不能進行再発結腸・直腸癌に対する modified FOLFOX6 療法 (mFOLFOX6) は頻用されるレジメンである。今回，進行直腸癌に対して

mFOLFOX6+Cetuximab 併用療法中に，高アンモニア血症による意識障害をきたした高齢者の1例を経験したので報告する。

### <症 例>

【患者】82歳，男性。

【主 訴】意識障害。

【既往歴】高血圧症。

【生活歴】ADL 自立。ECOG-PS 0。

飲酒 数十年前までは大酒家であったが，大腸癌診断後から禁酒している。喫煙なし。

Takahito TANIURA et al.

1) 松江赤十字病院初期研修医

2) 松江赤十字病院消化器外科

3) 松江赤十字病院消化器内科

4) 松江赤十字病院総合診療科

連絡先：〒690-8506 島根県松江市母衣町200

松江赤十字病院消化器外科